

第2節 良好的な景観の保全

◆ 計画がめざすまちの姿 ◆

『里山や田園が織り成す農村景観や市街地の町並みは本町が誇るすばらしいものです。

これらを守るために、地域ぐるみによる積極的な景観の保全活動が見られます。また、都市計画については、山林や河川などの自然景観の保全、里山や田園と集落環境との調和、豊かな緑と歩行空間に調和した街路樹整備などが図られ、住民による活動とあわせ、緑に囲まれた豊かな都市景観、田園景観が保全されています。』このようなまちをめざしていきます。

◆ 施策の体系 ◆



◆ 目標指標 ◆

指標名	現状値	目標値	
		平成21年度	平成27年度
自然環境にやさしいまちだと思う人の割合	80.6%	85.0%	90.0%
ボランティアによる町内美化活動団体登録数	0 団体	1 団体	2 団体

◆ めざすまちの姿を実現するためのパートナーシップ ◆

- 主に行政は、関係機関などと連携し、広報や環境教育などを通じて、環境に対する意識の高揚と取り組みを促進するための啓発に努めます。またパートナーシップとして住民は、ごみのポイ捨てや不法投棄、駐車・駐輪など、まちの景観を害する行動を行わないようにします。
- 主に行政は、景観保全に向けたまちぐるみの取り組みを促進するため地域や事業者との連携体制の構築に努めます。またパートナーシップとして住民は、まちの美化活動や河川の清掃、山林の保全活動などを行うようにしていきます。

1 水と緑の環境保全

基本方針

本町の周囲を取り囲み、まちの貴重な景観を形成している豊かな緑と山並みのほか、盆地に広がる里山や農地、河川などを保全するとともに、環境保全意識の高揚を図るために、自然環境について、学び体験できる機会の創出に努めます。

(1) 現状と主要課題

- 平成22年度に「豊能町森林整備計画」を策定し、自然景観の背景となっている外周部山地の森林を保全していますが、整備の行き届いていない放置林の対策が必要となっています。
- 本町の山林の約50%は人工林でありながら、木材流通や人材不足などの問題から保全については追いついていない現状が見受けられるため、山林の保全・管理が課題となっています。
- 北摂山系の豊かな緑と山並み、盆地に広がる里山や農地、河川など、貴重な地域資源である豊かな自然環境を保全するとともに、住民、事業者、行政が連携した水と緑の環境保全活動を行う必要があります。あわせて、幹線道路沿いの街路樹の整備などにより、これらを、まちが誇るすばらしい景観として形成していくことも課題となります。
- 住民の憩いの場として、自然とふれあえる場を提供し続けるため、本町の既存施設の維持管理が今後の課題となっています。

(2) 主要な取り組み

● 自然景観の保全

自然景観の背景となっている外周部山地の森林を保全するため、「豊能町森林整備計画」などに基づき、関係機関や団体、ボランティアなどと連携し、計画的に放置林対策に取り組みます。

また、間伐材を有効に活用できるよう支援を行います。

● 水と緑が調和した景観の保全・形成

余野川をはじめとする河川については、周辺の自然景観に配慮した改修・整備を行いより一層、住民がまちの水環境に親しめるとともに、訪れる人を惹きつける景観形成に努めます。

また、河川水質の保全にかかる公共用水域の監視や大阪府と連携して大気の汚染状況などの把握に努め、地域住民などが行うボランティア清掃などへの支援にも努めています。

さらに、本町の自然景観・農村景観等に配慮しつつ、幹線道路沿いにおける街路樹の整備にも努めます。

● 自然とのふれあいのある場づくり

心に安らぎを与える貴重な地域資源である里山を後世に残すため、環境学習と連携した文化の継承や、日常的に親しめる空間としての里山整備を住民参画の芽を育てながら進めます。

また、既に整備が完了している「町民ふれあいの森」や「初谷川自然の森」については、住民が自然とふれあえる場として、町民との協働による維持・管理を進めます。

● 水質検査等の実施

公共用水域の水質検査や工場・事業所等への立ち入り検査を行うことで、地域全体の環境を保全する取り組みを実施します。

● ボランティア清掃等への支援

住民一人ひとりが町の環境保全を意識し、ボランティアによる河川等の清掃を実施していくよう、その取り組みを支援します。

また、住民との協働による保全活動が行えるよう「豊能版グラウンドワーク」についても検討していきます。